

称していたが後に西新田と改称し、宝暦二年(1752)に西田村と改称し、独立の一村となった。」

昭和三十八年一月鶴崎神社の飛び地境内神社として合併された。

祭典は、春祭を五月第二日曜日、秋祭を十月第四日曜日に執行している。

また、境内に木野山神社が祀られており、七月第二日曜日に本社である木野山神社(高梁市津川町今津)に代表者が参拝し、祈願の上、疫病除けの神札を受ける。

荒神社境内には「茅の輪」を設置し、木野山神社前で祭典を執行する。

18 大藏神社(五日市)

鎮座地 倉敷市五日市三九二

境内地 三四三、二m

祭神 日本武命

拝殿に掲げてある由緒によると、日本武命が熊襲を討った後、船で大和へ向かう途中、吉備



大藏神社本殿(五日市)



大藏神社の老松(昭和47年11月小原達夫氏撮影)

の穴海(阿知)で悪神を滅ぼした。

命の偉業を讃え、永保二年(1082)丹生崎

に大藏神社を建立し、その後、天正年間(1573~1592)に現在の地に移転した。享保十三年(1728)社殿を改築。

棟札によると、明治三十七年本殿屋根銅板葺き替え、昭和二十七年本殿屋根葺き替え、昭和四十二年本殿屋根葺き替えとある。

平成十一年三月二十六日鶴崎神社の飛び地境内神社として合併された。

大藏神社の境内には樹齢四五〇年と言われる老松があり、遠くからでも見る事ができ、根本には人が入れる程の大きな穴が空いていたが、松食い虫の被害に遭い、昭和四十七年十二月に伐採された。

祭典は、五月第一土曜日に春祭、八月第一土曜日に夏祭、十月第一土曜日に秋祭がそれぞれ執行される。

工作物

社号標

神社の名称を知らせるためのもので、一般には石柱で作られている。

当社の社号標は、正面石段脇と表参道入口の二ヶ所に設置されている。

正面石段脇の社号標は、大正十一年十月に栗原貴之助、栗原益夫両氏の寄進により建立されており、側面に当時の社格を示す「郷社」の文字が浮き出しにより刻まれている。

終戦後は、全国の神社でGHQの指示により、社格を示すものは全て消されたが、当社の郷社の文字は「浮き出し」になっていたので、消される事を免れたのであろう。



鶴崎神社遙拝所と彫られた遙拝石

所などがある。この遙拝所は、五日市から鶴崎神社まで遠い為に設けられていると思われる。

表参道入口の社号標は、平成二年七月に県道を通行する車からも神社名が確認する事ができるように建立された。



表参道入口の社号標



正面石段脇の社号標

標柱

神社又は祭場の設備の一種で、参道の入口や社頭に立つ一対の柱である。

古くは、注連縄(しめなわ)を張る柱で、臨時祭場の忌竹(いみたけ)の様な物であったが、次第に神社に設置される石柱となった。

当社の標柱は、表参道入口と、東参道入口の境内と、鹿島神社石段脇の三ヶ所へそれぞれ設置されている。表参道入口の標柱は文久二年(1862)

鶴崎神社遙拝所

遙拝とは、拝む対象物(神社等)が遠方にあるために、対象物のある方向に向かって遙かに拝むことである。

遙拝所の施設としては、遙拝する神社の名称や神の名称を石柱などに彫ったものや、柵が巡らせてあるものなどがある。

代表的なものとしては神宮(伊勢神宮) 遙拝



荒神社の境内に設置されている遙拝所(右端)

に敷地を西田邑(むら)の厨司仙次郎氏が寄進し、高須賀・大森源吉、西田・貝原徳治良、宮寄・松尾利喜造各氏が発起人となり建立したと標柱に刻されている。

東参道入口の境内に設置されている標柱は大正九年九月の建立で、栗坂泰三郎氏が世話人となり朝鮮新義州府・藤原秀吉氏が奉納している。

鹿島神社石段脇の標柱は大正五年九月の建立



表参道入口の標柱(文久2年建立)



東参道入口の標柱(大正十年建立)



鹿島神社の標柱(大正五年建立)